

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>■補助事業、トップセールスについて</p> <p>近年、ミカンの販売の調子は良い。一方で経営環境は楽ではなく、後継者も残っているが、やめられる方も多くいる。生産条件を良くするため、基盤整備、道路整備、改植を進めている。品種構成を変え、11月から1月にかけての収穫・出荷量が増えるなかで貯蔵庫・仮貯蔵が不足しており、付随してフォークリフト等の機械も必要になっている。国の事業はだんだんハードルが高くなっていくが、どのタイミングで取り組めばいいか悩む部分もある。また、市長にはぜひトップセールスをお願いしたい。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>熊本市は他市町村と比べて恵まれている産地だと思うが、農業従事者は減少傾向にあり、将来に向けて後継者をどのように育成していくかが重要な課題。そのような中、貯蔵庫、フォークリフト等の設備の投資は、的確に行っていく必要がある。市としてもどういった形で支援できるのか、考えたい。また、取り組みたいと思ったら早めにご相談いただき、一緒になって、戦略的に進めていくこともできると思う。農林水産省にも生産者のインセンティブが働くような仕組みづくりをしていただきたいと要望したところである。事業のタイミングとしては、先進的に取り組みたいと思ったら、早い方がいいと思う。早めに判断して取り組めば、上手くいかなかったとしても修正や方向転換がやりやすく、結果として経営のリスクを抑えられる。あとは、その投資がどれだけ収量や収益等の実績につながっていくのか、きちんと数値として出していくことも必要。「夢と活力ある農業推進事業」の予算を増額しているが、それは皆さんの要望があるからである。</p> <p>トップセールスの件、熊本のみかんのクオリティは非常に高い。生産している皆さんの声、思い、意気込みを消費者に伝えていくことは大切である。ブランディングも重要で、熊本とみかんのイメージが結びつくようになるといい。生産者の皆さんも消費地に出向き、PRを頑張ってもらいたい。</p> <p>〔農水局長〕</p> <p>補助事業は、制度開始から時が経つほど要件が厳しくなることが多い。できるだけ早く事業の計画を立てて取り組むことをお勧めする。</p>	農水局	<p>農業支援課</p> <p>農業政策課農水ブランド戦略室</p>
2	<p>■新技術の導入等に関する市の取組みについて</p> <p>後継者不足や高齢化は深刻で、10年後には、農協の柑橘部会の部会員も30パーセント程度減るのではないかと考えている。労働力の減少を補うため、機械化、省力化など新しい技術の導入やアウトソーシングなど、やれることはやっていきたい。ドローンやアシストスーツ等の導入について、現在の市の取組み、助成の内容を教えてください。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>今後を見据えた場合、今のうちに作業環境の改善を進めておくことは重要で、省力化、機械化が必要である。ドローンは使いやすくなっている。性能も良く、価格も低いものが出ているようだ。これから、松尾西小で県のドローン協会が研修を行う動きもあるので、そういったところとの連携も良いと思う。</p> <p>〔農水局長〕</p> <p>国、県の事業を活用しながら支援していきたい。また、今年から「夢と活力ある農業推進事業」でスマート農業を支援する枠を設けている。アシストスーツは補助率1/2の上限100万円、ドローンは共同利用に限り補助率1/3で上限500万円である。スマート農業の実証試験を、なす、すいかで行っているが、それをみかんに展開することも含めて、より省力化できる取組みを考えていきたい。</p> <p>〔農業支援課長〕</p> <p>従来の無人ヘリ等に比べれば、ドローンはかなり安く導入できる。</p>	農水局	農業支援課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>■新規就農者への支援等について</p> <p>中山間地域では若手が少なく、場所によっては限界集落も出てきた。来年、地域の農業者が株主となって農業生産法人を立ち上げる予定であり、そこで就農希望者を受け入れていきたい。新規就農者を増やし、鳥獣や害虫のすみかになる耕作放棄地を発生させないように取り組んでいきたい。地域で運営していくような形にしなければ、中山間地域は維持できない。行政の支援、バックアップもお願いしたい。</p> <p>また、新規就農者の場合、最大150万円の交付金が給付される制度があるが、農家の子だと条件が厳しい。一方で、実家が農家ではない新規就農者が、年150万円の受給だけで自立するのは難しいのが現状。農家の子が給付を受けやすくなれば、後継者不足の解消につながる。非農家出身の新規就農者は、地域でしっかり支援したい。農業を継続できる環境づくりと並行して人材育成をやっていききたいので、応援してほしい。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>特に中山間地域において若手が不足していることは、全国的に深刻な問題である。農業生産法人による新規就農希望者の受け皿づくりは解決策の一つになると思う。具体的なプランがあるようなので、早めに相談してもらいたい。</p> <p>新規就農して頑張っている友人から連絡があるが、所得面も含めて厳しいのが現実のようだ。新規就農者の心が折れないよう支援する必要がある。法人が雇うことで、就農者は技術が学べ、農業の仲間もできる。法人にとっても労働力不足の解決などにつながる。</p> <p>〔農水局長〕</p> <p>新規就農にあたっては、地域のコミュニティに入っていくことが一番難しいと言われる。まずは地域の法人で受け入れて、ひとり立ちできるまでサポートしていくというのは良い取組と思う。事前に相談していただきたい。</p>	農水局	農業支援課
4	<p>■鳥獣被害対策について</p> <p>今後、耕作放棄地の増加、それに伴う鳥獣被害の拡大は避けて通れない。電気柵を設置し、猟友会にも頑張ってもらっているが、なかなか追いつかない。何とか数を減らさないと対策の効果が出にくい。イノシシの子のうり坊を、大きくなるまであえて狩猟しないこともあるとも聞くが、早めの駆除が必要ではないか。このままでは、農作物だけでなく人身被害も懸念される。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>生産を守る鳥獣対策は重要な課題。平成30年度に鳥獣被害を専門的に担当する「鳥獣対策室」を設置して、農業分野だけでなく、生活被害についても対応している。</p> <p>〔農水局長〕</p> <p>イノシシの習性上、母親を捕獲しないと、またすぐに繁殖してしまう。警戒心が非常に強いので、大型の囲い罠等を利用して親子を一体的に捕獲するなどの工夫が必要である。</p>	農水局	農業支援課鳥獣対策室

No.	ご意見	回答	局	担当課
5	<p>■電気柵の維持や研修に対する補助について                      電気柵について、新規導入時の補助だけでなく、維持していくための補助も検討してほしい。また、研修費用への補助金について、最新のところで研修しないと補助が出ないようだが、目的に合った研修ができるようご考慮いただきたい。</p>	<p>〔市長〕                      維持・更新のための補助は、農業分野に限らず、他の分野においても一般的には対象とならないが、維持・更新の負担が重いという事情は理解している。全国的にも要望が出ているようなので、市として国へ要望を出していきたい。また、研修への支援については、できるだけ柔軟に対応できるよう配慮したい。</p> <p>〔農業支援課長〕                      市の「夢と活力ある農業推進事業」では、研修経費だけが補助対象ではなく、施設整備や機械導入等、いろいろなメニューがある。事業計画の内容をポイント制によって評価し、予算の範囲内で採択する仕組みである。研修内容が最新のものでなければならないという要件はない。来年度の春に公募予定なので、また応募していただきたい。</p> <p>-----</p> <p>〔農業支援課鳥獣対策室 追記〕                      改めて、国や県に確認したところ、管理期間（電気柵：8年間、ワイヤーメッシュ柵：14年間）を超過し使用できない侵入防止柵については、更新の補助対象となる場合があるとのこと。                      詳しくは鳥獣対策室に相談いただきたい。</p>	農水局	農業支援課  農業支援課鳥獣対策室

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	<p>■労働力確保について 若いメンバーでみかんを生産している。日頃の管理は何とかやっているが、収穫は非常に大変である。収穫時の労働力確保に苦慮しているため、アルバイト等を募集しているが、なかなか集まらない。外国人雇用も考えるが、仕事場が山なので、車等の移動手段の確保や休憩のためのプレハブ等も必要になる。</p>	<p>〔市長〕 どの業界でも人手不足が深刻である。外国人が増える中、共生社会の実現の要望も受けている。外国人を対象とするかに限らず、雇用にあたり、移動手段や休憩所の確保等の環境整備は非常に重要。民間企業の活力を利用した仕掛けができないかと思う。また、人材のマッチングなど経済観光局との連携による雇用の確保も大事である。外国人が日本で生活を営んでいくためには、生活習慣や言語の問題もある。9月に国際交流会館の中にワンストップ窓口を設置する予定。そこで知り合える外国人の先輩、経験者は、指導役やメンタル面での支えにもなる。 農業は収穫時に集中して労働力が必要になる。人のシフトや産地間での雇用リレー等を検討していく必要がある。</p>	農水局 政策局 経済観光局 都市建設局	農業支援課 国際課 経済政策課 空家対策課
7	<p>■労働力確保について みかんの収穫時の短期雇用が課題である。農家が減る中、1戸あたりの栽培面積は増えており、品種を増やして収穫作業量を平準化する等の工夫をしているものの、なかなか作業が追いつかない。</p>	<p>〔農水局長〕 住まいの問題もある。空き家の改修や、廃校を利用している産地もある。農協と連携しながら、地域にあった仕組みを作っていく必要がある。 外国人雇用についてJA中央会が検討しているが、短期雇用では難しい状況。農業者個人で取り組むと非常に大変なので、会社単位、JA単位での対応が必要。</p>	財政局	資産マネジメント課
8	<p>■新規就農者への支援について 実家はサラリーマン世帯で、私も福岡でサラリーマンとして13年間務めた。37歳のときに河内で就農して2年が経つ。みかんに関しての知識や技術がまだまだ足りていないと感じているので、もっと勉強会等に参加していきたい。また、新規就農者は、施設や機械類だけでなく、こまごました道具も揃える必要があり、一つ一つは少額でも積み重なると相当の負担になるため、そういった部分についても支援をいただくと助かる。</p>	<p>〔市長〕 意欲的に勉強したい、プロとしての道具等を揃えたいと考えているところだと思う。支援については検討していきたい。</p> <p>〔農水局長〕 スマート農業の事業の中で、失敗しない農業者の育成を進めたい。生産、販売等のデータを蓄積して、レベルの高い農家の結果を踏まえ、その時にやるべき作業、病虫害への的確な対処等を分かるようにしていく。熊本市では、なす、すいかを対象に実証を進めているので、それらの成果はみかんにも横展開できると考えている。 少額の道具類の補助等について、行政で全て支援するのは難しい。融資制度の利用や、地域での使わなくなった物の活用等を検討してもらいたい。経営計画の策定の際、市も相談に乗っていきたい。 研修についての支援は、JAの部会単位で実施する場合、熊本市からの補助金が、活動経費の一部となっている。</p>	農水局	農業支援課 農業政策課農水ブランド戦略室

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p>■耕作放棄地の解消に関する支援について                      就農して3年目になる。以前はサラリーマンをやっていたが、親が農家で、継いでいる。廃園が増えているが、整備することで再び活用できるようになる園地もある。また、みかんが作れるように整備していただきたい。</p>	<p>〔市長〕                      耕作放棄地への対策については、担い手がいることが大切。担い手が残っている地域は、耕作放棄地を解消できる可能性がある。</p> <p>〔農水局長〕                      現実的には耕作の継続が難しい農地もあると思うが、比較的条件が良い農地であれば、農業委員会に入ってもらい、新たな耕作者が活用できる事業もある。現在、関係機関で農地の流動化を推進するチームを作って、取り組んでいるところ。地域での調整が重要なので、地域でしっかり話し合っただき、市にも相談をしてもらいたい。</p>	農水局  農業委員会事務局	農業政策課  農業委員会事務局
10	<p>■吉次パイロット地区におけるかん水設備の更新について                      吉次パイロット地区の団地は平成10年に改植され、約42haの園地が広がっている。当時最新式のかん水設備を導入したが、20年が経過し、更新も考えていかなければならない時期にきている。先般の熊本地震の後に不具合が発生し、修理代が非常に高額で苦慮している。補助事業等も活用して生産者の負担を軽減したく、市からも支援をお願いできれば大変助かる。</p>	<p>〔市長〕                      特に地震に起因するものであれば、相談していただき、活用できる事業等がないか検討したい。</p> <p>〔農水局長〕                      農業用施設の長寿命化の事業もあるので、活用してほしい。</p> <p>〔農地整備課長〕                      後日詳しい話を聞かせて欲しい。北農業振興課が窓口役を担っている。</p>	農水局	農業支援課  農地整備課  北農業振興課
11	<p>■スマート農業の果樹生産への利用について                      スマート農業の話が挙がっているが、剪定技術、摘果、マルチ被覆、水管理、全てが職人技だと思っている。統計データでも示されているとおりの戸あたりの面積は増えている状況で、機械化に頼れるところは頼りたい。スマート農業の技術がどのように果樹生産に利用できるのか知りたい。</p>	<p>〔農水局長〕                      匠の技を一子相伝の技にするのではなく、映像や画像等を使って分かりやすく示しながら、適期にするべきことを産地の技術として標準化し、失敗を減らしていく。併せて、省力化につながる作業道の整備等の基盤整備をしっかりとやっていく。当産地のなす、すいかで実証を進めているスマート農業技術の横展開とともに、長崎県の西海や佐世保で利用が進んでいるドローン等、他産地の実績も踏まえて現場への実装を進めていきたい。</p>	農水局	農業支援課

No.	ご意見	回答	局	担当課
12	<p>■配偶者への支援及び猟友会への加入について                      新規就農者への交付金を5年間もらった。当時よりも農地の条件について要件が緩和されたようで、よかったと感じている。現在、妻が勤めに出ており、妻と一緒に家族で農業経営ができるよう配偶者への支援があると大変助かる。</p> <p>また、私は鳥獣を駆除し、財産を守りたいという気持ちで地域の猟友会に加入しているが、鳥獣被害が多くなる前から存在する組織であり、様々な考えを持った方々がいるため、活動にジレンマを感じることもある。</p>	<p>〔市長〕                      新規就農者への継続的な支援は引き続き検討していきたい。猟友会について、会員間で活動に対する温度差があるのは理解できるが、農業を守るためのチームとして、取り組んでいく必要がある。</p> <p>〔農水局長〕                      配偶者への支援については、経営拡大の中での労働力確保といった視点で支援することは可能性があるかもしれない。農家ハンターのような農業者で地域を守る地域駆除隊という仕組みを検討している。また相談いただきたい。</p> <p>〔農業支援課長〕                      新規就農者1人だと年間に150万円、ご夫婦だと1.5倍の225万円が給付される。ただし、今回のように、受給した後に結婚した場合、配偶者の分は給付されない。                      熊本市の場合は、旧熊本市、植木地区、城南・富合地区の3つの地区で、駆除をしていただく団体を募集し、決定しており、活動する場合は、その団体に加入していただくことになる。</p>	農水局	農業支援課  農業支援課鳥獣対策室
13	<p>■研修について                      現在、青年部には90名所属している。今の予算では九州以外の先進地視察はできず、支援をお願いしたい。</p>	<p>〔市長〕                      90名も若手の担い手がいることは大変心強い。忙しい時ほどしっかり学んで欲しい。今後、農業は国際的な競争にさらされていくと思う。生産性を高めるためのノウハウを産地に蓄積させながら、身につけていてもらいたい。</p> <p>〔農水局長〕                      先ほども紹介したが、JAの部会が実施する研修等については、熊本市からJAへの補助を通じて支援している。</p>	農水局	農業支援課  農業政策課農水ブランド戦略室